

チリ政治情勢報告（12月）

平成30年1月

1. 概要

- (1) 内政では、17日に大統領選挙決選投票が実施され、ピニエラ候補（野党会派「Chile Vamos」）が54.57%で、45.43%のギジェル候補（与党会派「新多数派」）を破り、次期大統領に選出された。
- (2) 外交では、ムニョス外務大臣がベネズエラの与野党間対話出席のため12月中に二回、ドミニカ共和国を訪問した。またアルゼンチンで開催された第11回WTO閣僚理事会にもムニョス外務大臣は出席し、2017年5月設立の中小零細企業フレンズグループ会合議長として、中小零細企業の活動を高めるWTOが取り組むべき作業プログラムの創設を提案した。

2. 内政

(1) 大統領選挙（決選投票結果）

17日に実施された大統領選挙決選投票では、ピニエラ候補が54.57%で次期大統領に選出された。18日11時30分時点の選挙管理委員会（Servel）の開票速報（開票率99.99%、速報としては最終発表）は以下のとおり。

(1) セバスティアン・ピニエラ（野党会派：Chile Vamos）	54.57%
	(3,795,896票)
(2) アレハンドロ・ギジェル（与党会派：新多数派）	45.43%
	(3,160,225票)
投票総数：	100% (7,032,585票)
有効得票：	98.91% (6,956,121票)
無効票：	0.80% (56,415票)
白票：	0.29% (20,049票)

(2) 2017年大統領選挙第1回目投票：公式結果（官報）

4日付官報は、大統領選挙第一回目投票（客年11月19日実施）の最終公式結果を掲載。

1. セバスティアン・ピニエラ（野党会派：Chile Vamos）	2,418,540票	36.64%
2. アレハンドロ・ギジェル（与党会派：新多数派）	1,498,040票	22.70%
3. ベアトリス・サンチェス（野党会派：拡大前線）	1,338,037票	20.27%
4. ホセ・アントニオ・カスト（無所属）	523,375票	

	7. 93%
5. カロリーナ・ゴイック（キリスト教民主党）	387, 784票 5. 88%
6. マルコ・エンリケス＝オミナミ（革新党（PRO））	376, 871票 5. 71%
7. エドゥアルド・アルテス（愛国党（Union Patriótica））	33, 665票 0. 51%
8. アレハンドロ・ナバロ（社会左派拡大党（PAIS））	23, 968票 0. 36%

有権者数は、14, 347, 288名。

棄権者数は、7, 643, 961名（53. 28%）

（3）第10州における土石流の発生

16日、第10州（ロス・ラゴス州）のチャイテン市ビジャ・サンタ・ルシアにて大雨による大規模な土石流が発生した。チャイテン市北部にて土砂崩れが発生し、これが河川に流れ込んだことにより土石流となり、ビジャ・サンタ・ルシアに甚大な被害をもたらした。

被害状況（12月26日時点）は、死者16名、負傷者12名、被災者112名、避難民213名、倒壊した家屋28棟。

3. 外交

（1）チリ政府要人の外国訪問

ムニョス外務大臣の動き

ア. ムニョス外務大臣のドミニカ共和国訪問

1日～2日に、ムニョス外務大臣はドミニカ共和国を訪れ、2日に開催されたベネズエラの与野党間対話へ参加した。ムニョス外務大臣は、「今回の対話では良い進展があった。与野党双方で検討されている合意の『草案』があり、他方で『悪魔は細部に宿る』と言われており詳細の調整はこれからでまだ合意に達するには課題が多いが、双方にとって重要な歩み寄りになるだろう」と述べた。

なお、15日に同じくドミニカ共和国サント・ドミンゴで開催された与野党間対話にもムニョス外相は出席。

イ. ムニョス外務大臣のWTO閣僚理事会出席

11日、ムニョス外務大臣はアルゼンチンで開催された第11回WTO閣僚理事会に出席した。ムニョス外務大臣は、チリは多国間貿易システムのルール遵守を約し、国際貿易におけるチリの経験こそ、グローバルマーケットへの参画の好例である、社会活動とも調和させながらの市場開放プロセスが自国民に恩恵をもたらしてきた、とスピーチにおいて

述べた。また、2017年5月設立の中小零細企業フレンズグループ会合議長として、中小零細企業の活動を高めるWTOが取り組むべき作業プログラムの創設を提案した。

ウ ムニョス外務大臣のメルコスール首脳会合出席

21日、ムニョス外務大臣が、ブラジルで開催されたメルコスール首脳会合に参加した。会合でムニョス外務大臣は、メルコスールと太平洋同盟との間の協力は「多様性の中での融合」という重要な概念の下進んできており、チリはこの政策の大きな推進力となっていると述べた。また、チリにおいて1月21、22日に、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）と中国との間の会合を開催し、CELAC各国の外務大臣を招待する、と述べた。さらに、ムニョス外務大臣、マクリ亜大統領、テメル伯大統領及びカルテス・パラグアイ大統領は、地域統合を進めていくことに強い決意を表明し共同宣言を発出した。

(2) 外国要人のチリ訪問

ア. ロイサガ・パラグアイ外相のチリ訪問

5日、ロイサガ・パラグアイ外相がチリを訪問し、ムニョス外相との会談が実施された。会談の中で、両外相は、チリとパラグアイのエネルギー協力や統合の促進は、二国間関係をより深化させる要素であるとの見解で一致した。両外相は、また、2017年8月3日にサンティアゴで実施された第5回チリ・パラグアイ政策対話において交わされた合意に基づいて、移民及び領事分野に関する覚書きに署名した。

ムニョス外相は、これまでの両国関係の強化に関する功績を認められ、ロイサガ外相より、国家功労勲章特別大十字型章（Orden Nacional del Merito en el Grado de Gran Cruz Extraordinaria）を授与された。

イ. ムヒカ元ウルグアイ大統領のチリ訪問

13日及び14日、ムヒカ元ウルグアイ大統領がチリを訪問し、ギジェル大統領候補の選挙キャンペーンに出席した。

(3) パチェレ大統領の国連の地球賞受賞

14日、パチェレ大統領は、大統領府において、国連の政治リーダー部門で「地球賞」（Premio Campeones de la Tierra）を受賞した。受賞理由は、新たな海洋保護領域の設置という貢献と政権下での再生可能エネルギーの推進である。「地球賞」は環境分野において国連が与える賞の中でも最高の荣誉であり、受賞したのは南米の政治リーダーの中で初。

(4) ホンジュラスの大統領選挙に伴う情勢に関する外務省声明

チリ外務省はホンジュラスでの大統領選挙に伴う情勢に関するプレスリリースを発出。チリ政府はホンジュラスでの選挙を契機とした喫緊の暴力事件に対する拒絶と犠牲者に対する弔意を表明し、大統領選挙の最終的な公式結果を尊重するように緊急の呼びかけを行った。